

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER



第24回交流会 第8回贈呈式・第7回卒業式にて



Contents

- P.2 一語一会「死力達成」
- P.3 第24回交流会レポート
(卒業式・贈呈式)
- P.5 第24回交流会レポート
(祝賀会)

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.

SPECIAL REPORT ～キム・ファンの「音のためのピザ」～



平成26年度新入生インタビューにて

- P.8 平成26年度新入生紹介
- P.11 竜の子近況報告
- P.13 竜の子(OB・OG)近況報告
- P.15 SPECIAL REPORT
- P.16 編集後記／お礼の言葉

第14号
Jul.2014

Tatsunoko Foundation

公益財団法人 竜の子財団

死力達成

私たち新極真会は、88ヵ国が加盟する世界最大のフルコンタクト空手団体に成長してきましたが、その過程で竜の子財団には物心両面で多大なご支援を賜ってまいりました。

もともと新極真会と竜の子財団の理念が一致していたことで組織同士の交流が始まりましたが、私個人も秋元竜弥理事長との男同士の付き合いのなかで互いに切磋琢磨し、励まし合いながら成長できたと思っています。現在は秋元理事長も新極真会の道場入門し、武道と真摯に向き合いながら稽古に取り組んでおられます。そして、なんと試合にも出場され、勝利をつかみました。率先して行動される姿にはリーダーとしての心意気を感じずにいられません。

竜の子奨学生と空手交流会を行ったり、東日本大震災の直後には被災地の宮城県女川町で炊き出しボランティアに行ったりと、組織同士でも意義ある交流が続いています。留学生の皆さんは非常に真面目で心やさしい人が多く、会うたびに感動を覚えます。竜の子財団の哲学が全員に伝わっているからでしょう。

空手は日本発祥の武道文化であり、世界ではサッカーに次ぐ競技人口がいてと言われています。ここまで世界中に広がった背景には、格闘技・護身術としての魅力もさることながら、礼儀礼節、「強くなるほどやさしくなれる」という思いやりなど、精神的な側面が大きな要因としてあるのではないかと私は考えています。そして、精神修行として私たちが最も重視しているのは、「あきらめない」「投げない」という強い心を養うことです。誰の人生にも、つらい、苦しいという場面が必ずあると思います。それを乗り越えるためには、知識や体力だけでなく、強い精神力がどうしても必要です。新極真会は「心極める」という理念のもとに活動しており、試合の勝敗以上に心の成長を追求しています。心を強く鍛え、たくましく生きていくために稽古し、試合に挑戦するのです。それが他のスポーツとは違う武道空手の最大の魅力であると自負しています。

ここで、心を磨くために私が人生のテーマとして掲げてきた言葉を留学生の皆さんに贈りたいと思います。

「死力達成（しりょくたっせい）」

これは1991年に開催された第5回全世界空手道選手権大会に先がけ、極真空手の創始者である大山倍達総裁が私の故郷である奄美大島に来島され、私に贈ってくださった言葉です。「死ぬ気で稽古しなさい。そうすれば体が小さくても世界チャンピオンになれる。努力すれば必ず夢は叶う」と大山総裁はおっしゃいました。私はこの言葉を信じ、それまで以上の厳しい稽古を自分に課しました。大会当日、自分よりはるかに大きな相手と戦うなかで「あきらめようか」という気持ちが頭をよぎっ

た瞬間もありましたが、なんとかその葛藤を乗り越え、優勝することができました。あきらめないことの大切さを大山総裁の言葉と自身の体験から学んだのです。これは競技の世界に限った話ではなく、誰の人生にも当てはまることだと思います。

大山総裁は1994年に逝去され、1995年には組織の分裂という悲しい出来事が起こりました。紆余曲折のなか、私は選手を引退した後も「死力達成」という言葉を胸に頑張り続けることができました。ここまで活動してこれができるのは、自分たちの組織を選んでついて来てくれた後輩や選手たちのために頑張ろうという気持ちがあったからです。「人のため」という気持ちを持つと非常に大きなパワーが生まれます。「人脈は金脈なり。友達をたくさんつくりなさい」。これも大山総裁からいただいた教訓でした。

今や新極真会は世界に8万人の会員を有するまでになりました。空手を通して巡り会った仲間たちと一緒に汗を流し、会話をする時間は私たちにとってかけがえのない宝物です。そんな仲間たちと共に、このフルコンタクト空手という競技をもっともっとメジャーにしていきたい。さらに、空手をオリンピック種目にするという壮大な夢に向かい、これからも努力精進していきたいと思います。

竜の子財団も、世界各国から人種・宗教・言葉・性別の違う人たちが集まったファミリーだと思います。このような素晴らしい縁を持ったからには、一生の友人として付き合いを続けていきたい。きっと仲間の大切さに気づく日がくるといいますし、信用ある仲間と協力すれば仕事も必ず大成するでしょう。仲間との絆、竜の子財団への感謝の気持ちを忘れずに努力を続ければ、必ずそれぞれの分野でリーダーとなり、世界平和に貢献できるような人物として活躍していけるといいます。思い通りにいかないことがあっても、決して夢をあきらめずに頑張ってください。

最後になりますが、母国に帰った際には、ぜひ新極真会の道場を探してみてください。私たちは、いつでもファミリーになれるはずです。



緑 健児

一般社団法人 全日本フルコンタクト空手道連盟 理事長
全世界空手道連盟 新極真会 代表

「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

第24回交流会レポート

2014年3月18日（火）に、竜の子奨学生12名が財団を卒業する日を迎えました。卒業生は会場の温かい拍手のなかで入場し、式辞の後に秋元理事長から卒業生全員に記念品を贈りました。次に在籍奨学生を代表して金恩河さんが送辞を述べ、最後に卒業生代表の答辞で林熙龍さんが寄付者および関係者の皆様へ心より御礼を申し上げました。

● 第7回卒業式 ●

式辞

秋元 竜弥 理事長

卒業生の皆さん、おめでとう！
本年度の卒業生は12名います。1年間竜の子奨学生として、もしくは長い学生ですと5年間竜の子奨学生として頑張った人もいます。皆さんと多くの交流会を通じ、とてもたくさんの思い出があり、非常に寂しい気持ちになっています。皆さんはこれから全員社会人としてそれぞれ企業に就職し、あるいは教育者として活躍していくと思いますが、今までの学生生活とは違って辛いことが増えてきます。本日は私から皆さんに送る言葉として、お話をしたいと思います。

今回、奨学生選考の小論文は「人生の目的」という課題でした。それぞれ目を通しましたが、皆さん一人一人が素晴らしい夢を持ち、自分たちの人生の目的を語っていました。「人生の目標」は皆さんそれぞれあると思います。では、「人生の目的」とは？「目標と目的」は何が違うのでしょうか？これから、社会に出ると色々なことがあります。障害もあり、御家族のこともあります。事故や、頑張ったのに報われないようなこともあると思います。人生は初めから様々な困難が待ち受けるものだと思います。

親鸞聖人の言葉に「知恵の太陽で無明の闇を破る」という言葉があります。もし目に見えないトラブルが発生したらその時には、落胆せずにまた大きな壁が来たぞという気持ちになり、自分達のそれぞれの知恵（知恵の太陽）を用いて、色々な難局を乗り越え、人生を乗り切ってください。この言葉を胸に、明日もしくは近い将来、皆が夢に向かっていくうえで様々な障害がくるとありますが、是非その時に思い出してください。大変寂しいですが、本当に卒業おめでとう！そして日本とアジアの架け橋、世界平和のため、人のために役立つ人材となって、活躍してください。



式辞を述べる
秋元理事長

送辞

筑波大学大学院 金 恩河（韓国）

卒業生の皆様、本日はおめでとうございます。竜の子奨学生として一緒に過ごした時間が私にとっては忘れられない貴重な時間でした。国籍も専門分野も違いますが、各々が自分でできることを一所懸命にやっていることが一番大きな共通点だと思います。私たちは、秋元理事長をはじめ、寄付者の方々から温かい援助を受けながら、竜の子財団のフレーズでもある「その夢はきっと世界を変えていく」を実現するために、一步一步進んでいると思います。しかし、なかなか進まなくて苦しんでいる時や、もしかしたら一人で誤った道を歩んでいるのではないかと心配になった時に、交流会を通して仲間と同じ悩みを話しあって、お互い励ましあって、次のステップに移る勇気をもらえたと思います。

皆様が卒業していなくてもその温かい気遣いと言葉は忘れられないことです。また、在学生としての役割は、新入生を温かく受け入れ、竜の子奨学生という誇りと仲間意識を後輩たちにもつなげるようにすることだと思います。卒業生の皆様、竜の子奨学生は卒業して世界のどこにいても、竜の子として繋がっていますので、その誇りをもって夢に向かって頑張ってください。



送辞を贈る
金 恩河さん

答辞

電気通信大学大学院 林 熙龍（中国）

7年前私は日本の先進的な情報技術を身につけるという夢を持ち、日本に来ました。学費や生活費を負担するために、アルバイトをしていました。学業とアルバイトを両立させることが困難のため、夢の実現が遠くなっていくように感じました。この時幸いにも竜の子奨学生として選ばれ、勉強の時間を多く取ることができました。

奨学金をいただいた他、竜の子財団の研修旅行や交流会を



答辞を述べる
林 熙龍さん

通じ、たくさんの日本文化に接する貴重な機会もいただきました。鎌倉研修の茶道や座禅の体験、広島研修の平和記念館・原爆ドームや沖縄研修のひめゆりの塔などを見学することで、日本文化を深く理解できました。もちろん竜の子財団からは精神的にもサポートいただき、家族のように私を支えていただきました。これらのことにより、私は「人に感謝する、人との絆を大切にすること」という信念を得ました。この春からは社会人として働くことになり、上司や同僚、お客さまとの人間関係を築くことが一番の課題になると感じていますので、「人に感謝する、人との絆を大切にすること」信念を持ってこれからの社会人生活に役立てたいと思います。

在籍生の皆様に、一つアドバイスをしたいと思います。竜の子財団にいる時間は本当にあっという間に過ぎてしまうので、私達が他の留学生より恵まれていることを忘れず、この恵まれている間に学業に全力を尽くして、学業以外のことでいろいろな挑戦してみてください。

最後になりましたが、卒業生を代表して、秋元理事長をはじめ、いつも陰で私達を見守ってくださった皆様に心より感謝いたします。これから私達は社会に入り、今までいただいたご恩をお返ししたいと考えています。本当にありがとうございました。

(担当：平成26年度竜の子奨学生 東京工業大学 房 福明)

● 第8回贈呈式 ●

同日、パレスホテル東京において第8回贈呈式が開催されました。今期新たに竜の子奨学生として選ばれた12名の留学生たちを迎えました。厳粛な雰囲気の中、秋元理事長と小谷選考委員長から温かいお祝いの言葉をいただきました。新入奨学生を代表して、郭中樑さんが寄付者の皆様および竜の子財団の関係者へ感謝の気持ちと夢に向かってこれからの決意を述べました。

式辞

秋元 竜弥 理事長

新しく竜の子奨学生となりました12名の皆さん誠におめでとうございます。当財団では皆様のことを心より歓迎いたします。さて、皆さんはこれから奨学金を受け取ることができるようになり、これで落ち着いて研究や勉強に励むことができるようになりました。当財団は、皆が夢を追い求め、実現し、その夢で世界を変えていき、アジア諸国との国際交流の架け橋になって欲しいと強く願っております。ほとんどの私費留学生は、夢を抱き日本に来るわけですが、やはり日本の物価高に、アルバイトをどうしてもしなくてはならないので勉強が疎かになって、自分達の夢を諦めて母国に帰っていく、もしくは夢を断念するという方がほとんどです。そのなかで、12名の選ばれた皆さんは、これから竜の子奨学生として、奨学金を受領し、勉強に励み、この機会を是非とも無駄にせず日々を過ごしてください。本当に将来を楽しみにしております。そして当財団のキャッチフレーズである「その夢は、きっと世界を変えていく」の言葉にあるように、皆さんの能力を国際友好親善世界平和に役立てていただきたいと思います。

選考結果報告

小谷 誠 選考委員長

選考委員は、東京外国語大学の名誉教授の横田先生と一橋大学教授の五味先生、そして当財団の秋元理事長、と私の4名で選考しています。選考経過について説明しますと、当



選考結果を報告する
小谷選考委員長

財団は2年前に公益財団法人になりました。その前は奨学生も50名ほどいましたが、公益財団法人になってからは半分減り、現在は22名になっています。そして、秋元理事長は一度当財団に入った奨学生は、普通最大2年間ですが、希望により大学に進学した5名の人から延長申請を受理しました。したがって、新規には12名の採用枠しかありませんでした。そこで、12の大学に2名ずつ推薦をお願いし、計24名の方が来て、そのなかから半数の12名を採用しました。まずは延長申請をした5名について、選考委員会で選考して全く問題無いということとなり全員採択となりました。次に、24名の候補者から12名採るので、選考委員会で様々なディスカッションをして、全員が一致した人を採用することになりました。その結果、1つの大学で2名推薦されて、2名とも採用になった大学があるかと思えば、誠に気の毒ですが2名とも不採用という大学もありました。そのように、選考は終わりました。

あと少し時間がありますから、専門の脳科学の話をしていただきますと、私は40年前にアメリカにある、マサチューセッツ工科大学に2年間留学し、脳の研究を始めました。まず私が最初に一番びっくりしたのは、脳細胞が一番あるのは何歳の時かと言うと、実はお母さんから生まれた時がいっぱい詰まっていた、それから減っていきます。ただお母さんから生まれた時は球根のような脳細胞の種で、そこから根が出て、茎が一本出て、葉っぱが出る。そうなり始めて活躍する脳細胞なのです。それはどうなるかと言うと、使わないと成長しないのです。皆さんがお母さんから生まれた時、2年か3年間暗い部屋に住んでますと、全員一生目が見えなくな

り、目の神経が全部死んでしまいます。ですから、早い時に脳細胞を使わないとだめなんです。本当に世界に通じるようなスポーツ選手になるには1歳から鍛え、若いほどいい。音楽、ピアニスト、バイオリニストも若い時からやらないとだめです。そしてだんだん伸びて、何歳まで一人前の脳細胞ができるかというと、22歳の時です。40歳までは、脳細胞の数がそのまま同数ですが、40歳を過ぎてから減り始め、60歳の定年を迎える頃には1日に30万個の脳細胞が死んでいきます。自分の脳細胞がどれくらい死んだのかというと、人の顔を見て名前が出てなくなるとだいたい死んでいるわけです。そのように判定することができます。そこで、数が増えないなら鍛えてもしようがないのではと思うかも知れませんが、数は増えなくても一つの細胞が大きくなり、根が大きくなると茎も大きくなって、全部が大きくなりますので、うんと鍛えることが大切です。そして先ほどの理事長の話で夢を持ちなさい、夢を持ちなさい、と話をされました。実は脳科学的に言いますと、夢を持つと脳の中心のところからドーパミンが出て、これが前頭前野に伝わってきます。そうすると前頭前野の脳細胞が活性化されて、幸せにもなるし、やる気もうんと出てくる。もう一つはドーパミンは脳の中心部の海馬というところにも伝わり、海馬を刺激すると記憶力もアップする。そのように皆さんは、将来大きな夢を持って頑張っていたいただければ、将来素晴らしい人生が得られると思います。

新入生代表挨拶

東京大学大学院 郭 中樑（中国）

この度、竜の子奨学生に採用して下さり誠にありがとうございます

ございます。今年の新入生を代表して、秋元理事長様をはじめ、竜の子財団の方々、財団を通じて私達を支援して下さる方々に心より感謝申し上げます。

私は中国山東省の出身で、中国で中学校を卒業し、長崎の高校に入学しました。高校では、勉学と生活の両方で先生たちのお世話になり、不足を感じずに大学に入れました。大学では、奨学金をいただき、さらにアルバイトと両親からの仕送りで生活してきました。しかし研究が忙しくなり、勉強とアルバイトの両立が難しく、これからの生活に不安に感じてきました。そのような時、今回竜の子奨学生に採用していただき、これからは安心して、より一層研究に集中できるようになりました。さらに、竜の子財団の活動を通じ、様々な人と交流を深めることを楽しみにしています。

私は今、生化学の研究をしています。具体的に言いますと、2型糖尿病や肥満症の原因となるインシュリン抵抗性について研究しています。そこで生物情報に触れて、もっと勉強したいと感じたので博士課程に進学し、生物情報を学ぶことを短期間の目標としています。卒業後は、会社に就職し、社会で経験したいと思っています。どこでも最善を尽くし、自分を成長させながら、人の幸せにつながるようなことを頑張りたいと心に決めています。最後に、もう一度今年の新入生を代表して、私達を支援して下さる竜の子財団の方々、関係者の方々に御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

（担当：平成26年度竜の子奨学生 東京大学 申 中華）



新入生を代表してスピーチする郭中樑さん

● 祝 賀 会 ●

贈呈式に続き、祝賀会が開催されました。ご来賓の山下様からスピーチをいただき、谷内様、緑様、伊藤様のビデオレター紹介の後、卒業生の代表より感謝の言葉を述べました。RIO様の歌により勇気づけられた後、相浦様から示唆に富むスピーチをいただき交流会が終了しました。

理事長挨拶

理事長 秋元 竜弥

去年、今回の卒業生2名を連れて香港に行ってきました。香港でNo.2、3兆円規模の資本家の李明治さんという、サンフンカイグループの創始であり、マレーシア、オーストラリア、そしてアジア事業のコングロマリットを築いた方とお会いしました。この方がなぜ声をかけて下さったのかというと、きっかけは竜の子財団の活動および方針をご覧になり、ぜひ面会したいとのことでした。李さんと学生のインタビューの中で、「成功の秘訣は一つは努力、一つは機会、も

う一つは運命だ」と仰られました。おそらく学生で努力しない人はいないと思います。そして機会をものにしない人、機会をものにできる人というところで分かれてきます。違う意味かもしれませんが、李さんは「努力しても機会をものにしても運がない人はだめだ」という衝撃的なことを学生に話しました。やはり運命に左右されてしまうのかと学生は大変衝撃を受けたようです。ですが、私は李さんがそういう意味で言っているのではないと感じました。その「運命」とは基金で人を育てたり、いろんな徳を積んできたうえで運が決まっているという意味だと思います。運を引き寄せるというのは

徳を積む、人のためになることです。運を皆さんで引き寄せるように楽しい会にしていきたいと思います。

ビデオメッセージ

内閣特別顧問 国家安全保障局長
谷内 正太郎様



谷内 正太郎様

今日は皆さんに勇気づける言葉を話したいと思い、ドイツの有名な詩人で大学者でもあるゲーテの言葉をご紹介します。彼は「財を失うことは小さく失うことである、名誉を失うことは大きく失うことである、勇気を失うことはすべてを失うことである」と言ったそうです。そもそも竜の子奨学金を受けて、日本で勉強しようという決断をされたことは大きな勇気を発揮したと思います。これからも皆さんは人生において、勇気を奮って積極的にいろんなことに挑戦してください。そして、自身の人生を充実させ、意義深くするために一生懸命生きてください。その勇気を発揮して、皆さん自身あるいは社会全体、国のために貢献するというのを大事な課題として、母国と日本の関係、あるいは皆さんと日本、そしてアジア全体の架け橋となることを期待しています。

一番大きな理由かもしれません。そう思った瞬間に、目がパッと開きました。もし私がいつまでも感謝の気持ちをもって、励ましてくれ、支えてくれる方に対して、ありがたいという気持ちを持ち続けていたら、私の人生はずっとついていくのではないかと思います。そして、ずっとついていきます。

考えると、皆さんのように奨学金をうける方々は常に感謝していると思います。一般的に、自分が困っている時に支えていただくと非常に感謝します。自分がうまくいっている時、周りに支えられても当たり前だ、当然だと思う人が多い気がします。しかしそう思うと、謙遜さ、素直さはなくなり、ほかの人から学べなくなってきました。私は困っている時だけではなく、うまくいっている時でも、感謝の気持ちを持ち続けていたら、多くの人が良運をもっていい人生を送れると思います。

皆さんは努力もした、チャンスもあった、あとはぜひ運をつかんで大きく羽ばたいてください。苦しい時だけではなく、うまくいっている時も支えてくれる人に対して、感謝の気持ちを持ってください。そうすると、もっともっとついていく人間になります。皆さんの母国と、そして世界平和のために、頑張りましょう。

来賓挨拶兼乾杯

東海大学 副学長

NPO法人柔道教育ソリダリティー 理事長
評議員 山下 泰裕様



山下 泰裕様

竜の子奨学生に選出された皆さんおめでとうございます。

考えてみますと、皆さんはたくさん留学生のなかで奨学生に選ばれたわけですから、非常に運が良かったと思います。実は私も運の良い人間です。現在私は57歳ですが、15年くらい前にある記者の方がインタビューをしにきました。その方の最後の質問が「山下さん、私はあなたのことをずっと調べてきましたけど、あなたは本当に運がいいですね。なんであなたはこんなに運がいいのですか？」と、これ以前も以後もないような質問をされました。私も自分で運がいいとは思っていませんでした。その質問をされて、なんでだろうと思わず目を閉じて、いろいろ考えました。そうしたら、答えは感謝の気持ちだと分かりました。私はオリンピックで活躍したり、国民栄誉賞をもらったりし、いろんな方から支えていただきました。それに対してよく考えてみると、私は強いから、世界チャンピオンだから、よくしてもらうのが当たり前だ、当然だというふうには考えませんでした。うまくいっても支えてくれる人に対して、ありがたい気持ちをもってきました。もしかしたらこれは私がついてる

ビデオメッセージ

全世界空手道連盟 新極真会
代表 緑 建児様



緑 建児様

私たち新極真会は、世界88カ国の加盟国を有する団体になりました。新極真空手を通して、宗教、文化、言語、国境を越えた深い絆を築き、友情をもって一生懸命頑張っています。竜の子奨学生が日本に来て、戸惑うことや辛いこと、また楽しいことをたくさん経験すると思います。竜の子財団の皆様の支えに心から感謝をし、頑張ってください。そして、皆さんがいつか日本と母国の架け橋になってくれることを心から期待しております。

ビデオメッセージ

株式会社バステルラボ 代表取締役社長
NPO法人STAND 代表理事
伊藤 数子様



伊藤 数子様

私はパラリンピックを観戦しにソチに来ています。勝った選手、メダルを取った選手、負けた選手を含めいろんな選手たちとお話させていただきました。もちろん勝った選手はすごいのですが、負けた選手がその負けをどのように力にしていけるのか。負けたからこそ次があるという

でも強い言葉に感銘を受けました。チャレンジし続けていくことは、ものすごく大きな力になるということを彼らが教えてくれたと思います。皆さんもこれからは卒業生が新しい社会へ、そして奨学生が日本の大学で、それぞれ大きなチャレンジに挑んでいくと思います。竜の子奨学生の「その夢は、きっと世界を変えていく」という合言葉通り、ずっと夢を追い続けてチャレンジしてください。健闘をお祈りしています。

卒業生代表挨拶

明治大学大学院 周 思思（中国）

竜の子財団からは経済的な支援をいただいただけでなく、精神的にも強く支えていただきました。2年前に父が他界し、ショックのあまりに私は夢を諦めることさえ考えていましたが、財団の皆様がいてくださり、支えてくださったおかげで、私は立ち直ることができ、夢の実現のため精一杯頑張ることができました。この5年間、私は修士課程を卒業し、博士課程に進学し、そしてこの春無事に卒業することができました。文系の博士の研究はほとんど一人でやるものなので、私は一人で過ごす時間が長く、毎回の交流会が私にとっての楽しみでした。皆さんとの交流を通して夢を追うことの楽しさを実感し、その度に勇気が湧いてきました。

私達は必ずこの恩を忘れずに新しい夢を追いかけしていきます。そして将来、私達もどこかで夢追い人の助けになり、このいい話を永遠に続けさせていきたいと思っています。



卒業生代表
周思思さん

名古屋大学大学院

リム・ヤン・クアン（マレーシア）

竜の子財団のご支援を受けたことで、私の人生は大きく変わりました。来日した頃はマレーシア政府から援助を受けていましたが、修士課程に進学してからは援助を受けることができなくなりました。私はマレーシアにいる家族に経済的な負担をかけないために、アルバイトで生活費を賄おうとしていました。アルバイトに多くの時間を費やしたせいで、勉強に専念することができなくなりました。そのような絶望的な状況に陥ってしまった私を救ってくれたのが竜の子財団でした。本当に心から感謝しております。

私は来年から日本で働くこととなりますが、社会人になっても山下先生のお言葉通りに、徳を積み、感謝を忘れず、運を掴み、がんばっていききたいと思います。



卒業生代表
リム・ヤン・クアンさん

ゲスト

シンガーソングライター Rio様

今日私は『CREW』と『ホタル』の2曲をお届けします。『CREW』はまもなく大きな航海を終えようとするキャプテンとそのキャプテンを支えるクルーたちの小さな物語を描いています。きっと今の卒業生の心境にぴったりだと思いますが、卒業は終わりではないので、これからを楽しみにして頑張ってください。そして『ホタル』はこのつながりが希薄な世のなか、つながりを大事に、みんなで一つになろうよという歌です。人生においては、つながりがなければ、何もできないし、逆につながりさえあれば、なんでもできるのではないかと私は信じています。強いつながりさえ持っていれば、そしてもう一つ、強い信念さえ持っていれば、きっとみんなの夢は叶うと思います。ぜひ強い信念と強いつながりを大事にして、これからの人生を送ってください。



Rio様

閉会のごあいさつ

GMOペイメントゲートウェイ株式会社 代表取締役社長 相浦 一成様

今日は皆さんの心に火をつけるような話をしたいと思います。1979年のハーバードビジネススクールのMBAを卒業した100人に調査をした結果では、人生の明確な目標を持っている人ほど、成功できたとのことが分かりました。私自身も20歳の時、60歳までに会社20社を作ることを目標とし、それを実現させるために、35歳で独立しようと紙に書きました。そして、当時の自分の目標を実現させました。目標を持って自分の計画をオンラインでやってただけですが、目標に対しての強い意思と絶対に負けない信念をもって努力してきたつもりです。

日本はこれからASEAN諸国にマーケットをシフトしなければならない状況に陥るかもしれませんが、卒業生の方はぜひ帰国して、母国でリーダーシップを発揮していただいて、日本と母国のかけ橋になっていただきたいです。

留学生である皆さんにはこれから言葉の壁も文化の壁もたくさんあると思いますが、日本に来た目的を忘れずに、絶対に負けない強い意志で頑張ってください。最後に私の好きな言葉を皆さんにお贈りします。それは「夢のある人に目標あり、目標のある人に計画あり、計画ある人に行動あり、行動のある人に成果あり、成果のある人に自信あり、自信ある人に夢あり」です。



相浦 一成様

平成26年度新入生紹介 新竜の子奨学生たちの「5年後の自分」

新年度の奨学生として竜の子大家族に入ることができた皆様、本当に恵まれていると思います。さらに先輩や仲間たちとの交流を通して、夢にも人生にもいろいろな大切なヒントをもらいました。これから迷わずに人生の夢を実現するためもっともっと頑張ります。それぞれの夢についてはホームページに掲載されていますが、その夢に向けて着々と進む第一歩として、新入生たちが5年後にどんな自分になりたいのか語ってもらいました。



呂 澄
(中国・遼寧省出身)
京都大学大学院
工学研究科
合成・生物化学専攻 修士2年

日本に来てから6年間経ちました。5年前の私は今の自分を思い描けているかというと、答えは否です。マーケティングでは「未来を大きく考える」という言葉があります。誰に出会え、どこにでかけ、なにをやり遂げるのは、未知だから美しいわけです。過去を振り返ってみると、「もしあの時そうしなかったら」などの疑念が出てきますが、今は過去の気持ちの表しであり、そして今の気持ちが未来を決めます。5年後の私はどこでなにをやっていても、まっすぐの気持ちを忘れずにより良い自分を目指せば良いではないでしょうか。やったことは、必ず血となり肉となっていくと私は信じています。後悔しない人生を歩んでいきたいです。



房 福明
(中国・湖南省出身)
東京工業大学大学院
総合理工学研究科
物理情報システム専攻 博士1年

私は未知のことを発見したり、問題を解決したりチャンレンジするのが好きなので、研究職を希望しています。5年後はたぶん研究者になっていると思います。研究者になることだけでは足りなく、世界で活躍できる研究者を目指すことが重要だと思います。目的を達成させるため、これからはどのような方法で進めるかを考えなければならないのです。そのため今から、前よりもずっと進歩できるように自分の不足点を反省して洗い出し、改善していきます。また、どんな素晴らしいアイデアがあっても行動しなければ、ただの冗談に過ぎないので、行動すべきです。目標を持っていつでも準備していれば、5年後にはきっと立派な人になれるでしょう。



ピョー イン ウィン
(ミャンマー・シュエジン出身)
京都大学大学院
情報学研究科
社会情報学専攻 修士2年

5年後は現在内定をいただいている会社でプロジェクトマネージャーとして、国内外を問わず顧客に対応できる、そして、システム開発のプロジェクト全体をまとめられる仕事に取り組みたい。上司から信頼されて、部下（後輩）から頼れる存在になりたい。その5年後のために、研究室でのグループワークや国際交流活動のようなイベントでできるだけリーダーシップを取るように心がけている。将来は、日本だけではなく、いろいろな国の人たちと関わる仕事をしたいと考えているので、そのために英語は必須となる。現在は英語の学習もしており、専門性を高めるためにも、研究に全力で取り組んでいる。



シャリアズ エムディ
(バングラデシュ・チッタゴン出身)
立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 国際経営学科 2年

大学を卒業してから、小学生の会話能力を向上するための学習プログラムにおける経験を積みたいと思い、5年後は、日本の小学校やKUMONのような企業に就職することを希望している。私の夢は、アジア太平洋地域では学生の議論力が足りないと感じたため、ディベートやそれに重視した英語を学べる環境を築いていくことである。その一環として現在、ディベートサークルを立ち上げ、APU生の会話能力やプレゼンテーション能力を高めるための活動をしている。また、この夏にKUMON主催で行われるキャンプ(Global Emersion Camp)に参加する。そのなかで、子供たちに対して「教える」ということに関しての経験を積み、公文キャンプのサポーターとしての知識や理解を深めていこうと考えている。



郭 中梁
(中国・山東省出身)
東京大学大学院
理学系研究科
化学専攻 修士1年

5年後の私は多分博士課程を卒業したばかりでしょう。博士号をとったあと会社で研究職につきたいと思っているので、5年後の私は社会人1年目で、勉強しなければいけないことが多く、毎日忙しく過ごしているでしょう。5年間の研究生活でたくさんのものを身につけ、磨かれて、洗練された人間になっていることでしょう。生物だけではなく、情報科学の知識も習得し、生物情報学の領域で活躍している研究者として名前を知られていきたいです。普段の生活では、常に目標を見つめて努力し、難局にも動じず、冷静に観察し、考える。また人に優しく、誰とでもコミュニケーションを取れるようになりたいと思っています。

今は理想の自分に向かって一生懸命頑張っているなので、応援よろしくお願いします。



許 臨揚
(中国・江蘇省出身)
名古屋大学大学院
国際言語文化研究科
日本言語文化専攻 博士3年

来年卒業したら、中国に帰り、大学で教鞭を取り、日本語教育者、研究者としてキャリアを積んでいきたいと思います。

5年後の自分は、中国の日本語教育現場で経験を積みながら、中国や日本、そして、世界の言語学会で発表することが想像できます。5年後の自分でも研究者としてまだ若くて、未熟ですが、このように、少しずつコツコツ経験や知識を積み重ねていきたいと思っています。5年後、中国や日本だけでなく、世界の舞台で活躍できるように、頑張っていきたいと思っています。



トープラサーポン タナワット
(タイ・ウドンタニー出身)
東海大学
工学部 電気電子学科 3年

私は今、脳から出した脳波について研究しています。5年後には27歳で、もう社会人の生活を送っているはずですが。大学院を卒業して、自動車の研究所や開発所または自動車メーカーに勤めていると思います。その時に、脳波を利用して、体が不自由な方のための自動車を制御したいという夢もっています。その夢を叶えるために、自動車の知識も必要だと思っています。今はまだ難しいですが、大学院で脳波について研究し続け、自動車業界で経験を積み重ね、近い将来には私と仲間たちがその自動車の開発者になるかもしれません。



王 娅琴
(中国・江蘇省出身)
明治大学
政治経済学部 経済学科 3年

私の出身地は中国の江蘇省です。今は留学生として明治大学で勉強をしています。今年の4月に、政治経済学部経済学科の3年生になり、開発経済学を学ぶゼミに入りました。自分の目標に近づくために、少しでも知識を深めたいと思っています。このゼミでは主に格差をなくすための経済学について学ぶので、将来日本と中国、そして中国国内の格差をなくしたいという夢を持っている私にとってはとてもふさわしいです。5年後の自分は日本の企業で働いているか、自分の起こした事業で忙しいと思います。もちろん、何か他のことや人に影響されて別の方向に変わる可能性もありますが、自分の計画では、卒業した後、日本の企業に入り、経験と知識を十分につけた上で会社を作るつもりです。



チン カ
陳 佳
(中国・上海市出身)
一橋大学大学院
商学研究科
経営学専攻 修士1年

技術力の高い日本のメーカーに入ることを目指して、就職活動で精一杯努力し、運良く来年の4月から日本のメーカーで働くことになりました。メーカーに入社するという目標が実現したため、これからの大きな目標は日本の最高の品質で世界に貢献することです。5年後は一人前の社会人として所属した部門でなくてはならない存在になることを目標としています。日本人の同僚ができる仕事だけでなく、私の言語力と日本での留学生活で鍛えられてきた強い精神力を生かして、自分にしかできない仕事をやっていきたいと思います。長期的には、日本と中国の架け橋になるのではなく、日本と世界各国の架け橋になることを目指しています。



チン エンライ
陳 衍磊
(中国・浙江省出身)
東京電機大学
工学部 電気電子工学科
電気電子システム 3年

5年後の私を思い浮かべると、会社のパソコンの前で一所懸命回路を設計している姿が頭のなかに浮かびます。

その時、私は大学を卒業し社会人になって2年目です。現在、エコエネルギー分野へと進みたいと考えているので、将来は中国か日本の会社でエコエネルギーを利用した製品を開発する仕事をしています。私は多くの人々と出会い、いろいろな場所へ行き、自らの視野をより広く持つようになると思います。仕事の余裕がある時、友達とお酒を飲んだり、お互い面白い話をしたり、充実した生活をしていると思います。

自分の力を活かし、人々に幸せを与えるという夢は変わらず、精一杯頑張っていきたいです。また、日本と中国の友好関係にも努力していきたいと思っています。



シン チュウカ
申 中華
(中国・河北省出身)
東京大学大学院
農学生命科学研究科
水圏生命科学専攻 博士3年

夢を語ることが得意ではない私は、竜の子奨学生になってから、夢を語ることの大切さを教わりました。過去を振り返ると、確かに目標があったからこそ、少しずつ成長してきました。10年前の私は将来日本へ留学したいと思って、一から日本語を勉強し始めました。5年前に修士課程在学の私は東大に入って海の環境の研究をしたいと思っていました。次の目標を、現在より5～8年後に、友人と一緒に水産会社を立てることとしました。

「千里の行も足下より始まる」ということわざが好きです。これからも、目の前の一番やるべきことをきちんとやり、チャンスを逃さず、感謝の気持ちを保ちながら頑張ります。そうすると、きっとその夢が叶うと信じています。



レティ テュ ヴァン《ヴィニ》
(ベトナム・ハノイ出身)
九州大学大学院
法学府 法政理論専攻 修士1年

将来はベトナムでNGOとして国の発展のために働きたいです。アジアのなかで最も経済的・文化的に発展している日本で学んだ知識・経験をベトナムに持ち帰りたいです。その時には、日本のNGOや政府機関、大学と協力して日本の良い所をベトナムに取り入れようと考えています。ベトナムは今だ途上国であるので、たくさんのNGOが国の発展のために働いています。それらのNGOは国連機関や大学と協力して働いているので、よりダイナミックな活動が望めます。私はすでに、NGOで通訳のインターンとして働いた経験があり、将来もNGOでベトナムの発展のために働きたいです。

竜の子近況報告

「芝桜を見に行く旅」



富士山の形で植えた芝桜と私

トープラサーポン タナワット
(タイ・ウドンタニー)

東海大学 工学部 3年



論文と私

モハメド サルージュ イシレット アハメド
(スリランカ)

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 4年

「今学期卒業論文に力を入れました」

今学期は卒業論文に力を入れました。私の卒業論文は「国際貿易、およびスリランカの自動車産業に関する金融制度」です。この研究により輸出入構造や自動車産業について深く学習し、また卒業論文を通じて、国際貿易における金融の方法を理解することができました。そして異なる国の貿易における規則を理解した上で、スリランカにおける輸出入の金融問題点を発見し、解決方法を模索し、今後社会に出てからの大きな礎となりました。



福岡で日本人大学生とフォーラムに参加しています

レティ テュ ヴァン 《ヴィニ》
(ベトナム・ハノイ)

九州大学大学院 法学府 修士1年

「国際会議に参加することによる勉強」

最近、私は九州大学の法学博士のCSPAプログラムの1年生として研究に取り組んでいます。そして、韓国・中国・日本・ヨーロッパからの学生と九大で開催されている会議に参加する機会があります。また、アジアにおける現在の課題に関する研究をするためにフィリピン、マニラを訪問する機会がありその会議を通じて、多くの国の教授および学生との議論から色々なことを身につけることができました。さらに、CSPAプログラムのフィリピンおよび日本でのフィールドトリップは、アジアの国際関係の将来の発展の要因について理解することができます。私はこのCSPAプログラムに本当に感謝しています。これから、NGOで働く夢をかなえるため、自分の論文を果たし、研究分野にもっと専念し、全力を尽くします。



本人：スライド左側

ピョー イン ウィン
(ミャンマー・シュエジン)

京都大学大学院 情報学研究所 修士2年

「就活を終え、研究に取り組んでいる日々」

今年の4月ようやく就職活動が終わり、現在は日々全力で研究に励んでいます。私はミャンマーの主要産業である農業におけるICTイノベーションというテーマで研究を進めています。6月6日（金）に日本に訪問していたミャンマーの科学技術局長さんをはじめ、ミャンマーのコンピュータ大学副学長らに今まで調査した研究結果を発表しました。私一人だけの力では調べることでできないミャンマー農業の状況、そして研究に対する貴重なアドバイスやコメントをいただき、非常に有意義な発表会でした。今回の発表会でいただいた貴重なコメントやアドバイスを今後の研究に活かしていきたいと考えています。



合気道稽古の私

グエン ドク ティエン
(ベトナム・クアンビン省)

電気通信大学大学院 情報システム研究科 博士1年

「研究と共に合気道も頑張っています！」

今年4月から博士後期過程に進学しました。今私の研究課題は、変分ベイズ法を用いてeテストングに使用されているベジアンネットワークIRTモデルを推論するというものです。具体的に推論精度の改良と計算コストを削減することを目的として、変分ベイズ法を導入し、有効性を評価する研究です。この研究では、数学が多く使われていますが、数学の知識が足りないので今数学を補足しているところです。

それに4月から合気道の生徒にもなりました。週2回稽古があり、毎回良い汗をかきながら合気道部の皆と一緒に努力しています。卒業するまでには初段を取るという目標を設定しています。



研究室の同級生と学会に参加（本人：左）

イ デイヨン
李 大英（韓国・ソウル市）

北海道大学大学院 水産科学院 修士2年

「栄養・食糧学会にて研究発表」

札幌で行われた第38回栄養・食糧学会に参加しました。これまでの研究成果を研究者や先生達の前で発表し、アドバイスやコメントを貰い、有益な時間を送りました。札幌は私が学部生の時2年間過ごした町で、行くたびに「ゆとりがあって、いいな」と感じます。また、久しぶりに札幌で働いているOBたちと交流もできました。来年から社会人になる自分を考えてみると、まだまだ足りないところが多いと思いますが、残りの学生時間で研究も遊びも頑張りたいと思います。



大阪にある能の体験会にて（本人：右端）

キム テヒョン
金 兌炫（韓国・ソウル市）

京都大学大学院 工学研究科 博士3年

「余裕を持った卒業準備」

博士後期課程の3年目であり、現在博士論文執筆のため、日夜研究に励んでいます。しかし、昨年度と比べて、違う余裕を持った生活をしています。

例えば、研究室では自分の研究を進めている傍ら、後輩たちの指導も積極的に行い、ロボカップ2014レスキューロボットリーグにおける優勝にも貢献しました。

また、大阪の大阪能楽会館で行った能鑑賞会に参加したり、初めて競馬場にも行ってみたりし、研究で疲れた体を癒しました。



学校でのレポート作成（本人：手前）

チン エンライ
陳 衍磊（中国・浙江省）

東京電機大学 工学部 3年

「大学生活の近況について」

今年、学部3年生になり、レポートや課題の量がとても多く、以前より専門科目も高度になって大変ですが、頑張っています。また、私は大学の留学生会に所属しており今では副会長を勤めさせてもらっています。来月のイベントに向けて、留学生会の人たちと意見を交換し、より良い企画となるように頑張っています。

これからの予定は、今は中間テスト期間中なので、テストが終わったらこれから所属する研究室について考え、その進路に向けて自分の夢を実現できるように努力していくつもりです。



長崎の高校に戻った時オランダ坂でとった写真です

グォ チョンリャン
郭 中梁（中国・山東省）

東京大学大学院 理学系研究科 修士1年

「大学院での生活」

大学院に進学し、3ヵ月経ちました。今毎日充実に過ごしています。研究室は大学4年生の一年間に在籍した研究室で、研究テーマも卒論の延長線上にあるので、落ち着いて研究しています。

最近、運動不足を解消するためにサバットを始めました。サバットはフランス発祥のキックボクシングで、そのレッスンは大学の体育館で受けられます。体をよく動かしたほうが、勉強する時の集中力と効率が上がることが再認識できました。



名古屋大学図書館で博士論文を執筆

キョ リンヨウ
許 臨揚（中国・江蘇省）

名古屋大学大学院 国際言語文化研究科 博士3年

「博士論文執筆の日々」

今年の3月、初めて皆さんとお会いしてからもう4ヵ月ほど経ちましたね。

生活の色は…警報のREDです。というのは、充実しすぎて、論文の締め切りと先生の催促に追われている日々です。緊張感たっぷりの日々、写真のような可愛いお花を買ったりして博士論文を頑張っています。最近、投稿した論文が採択されたとの連絡がきて、すごくうれしかったです。それは今の自分への何よりのご褒美でした。

どこにも行けないので、大学の図書館で論文作業をしているところの写真をアップしました。段々暑くなってきましたが、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

竜の子(OB・OG)近況報告



恩師に会った時の様子

ギ トウキ
魏 登輝 (中国・河南省)
東京外国語大学卒業

「久しぶり恩師に会ってきました」

皆さん、お久しぶりです。私は平成23年度の竜の子奨学生、魏登輝です。
大学を卒業してからずっと名古屋で仕事していて、「住めば都」とあるように、名古屋での生活にもやっと慣れてきて、仕事も何とか周りの先輩方に迷惑をかけずにやれるようになりました。

そのなか、先月大学時代の恩師と久しぶりにお会いすることができました。先生の御健康を実際に目で確認することができ、そして先生から励ましのお言葉をいただいたおかげで、社会人になって少しぼんやりになりかけていた自分の原点と夢を改めて思い出しました。

それでは、次に竜の子財団の皆さんに会う時まで、しっかりと自分の成長を見せられるよう、これからも頑張っていきます。



音楽の町ナッシュビル市内のモールで

キム ジウオン
金 智媛 (韓国・ソウル市)
一橋大学在学

「アメリカにいます」

一橋大学大学院の金智媛です。私は昨年6月から、主人の転勤でアメリカにきています。ここはテネシー州のフランクリンという小さな町です。

今大学院は休学中で、英語の勉強のかたわら子育てに専念しています。2012年末、竜の子財団を卒業する頃に産まれた子は、お陰様でもう1歳半になり、あっちこっち元気に歩き回っています。子どもが産まれてからは、家庭と研究を両立するのは想像より大変なことだと常に実感しています。学位を目の前にしている大学院の同期を見ると、「私は遅れているんだなあ」という気持ちになり、落ち込んだりもします。しかし、ここでの生活はいつか自分の人生にも研究にも活かせるような貴重な経験だと思いながら、この場で充実するように努力しています。



初家族写真！

サイ ヘキゲツ
蔡 碧月 (台湾・台北市)
筑波大学卒業

「家族が4人になりました!!」

竜の子奨学財団の皆様、大変ご無沙汰しております。皆さん元気ですか。

しばらく会っていないうちに、家族が4人になりました。お蔭様で、パパは英会話塾の人気教師になり、ママ(私)は特許事務所の特許技術員として務め、上の子はおしゃべりがとまらない3歳児になり、下の子はよく歩きまわる1歳児になりました。家族全員楽しく元気一杯に毎日を過ごしております。

竜の子財団の皆様方にいつも温かく見守っていただき、心から感謝いたします。



一歳の息子と

オウ エツライ
王 悦来 (中国・河北省保定市)
東京工業大学卒業

「仕事と育児頑張ります！」

竜の子財団の皆さん、ご無沙汰しております。2013年卒業した王悦来です。

財団卒業後、富士山の近くにあるファナック株式会社に就職しました。現在ロボット研究所に所属し、人間協調ロボットのソフトウェアを開発しています。人間協調ロボットは安全柵無しで、作業者と同じ空間で作業する新型ロボットです。作業者の安全をいつも心かけながら開発業務を取り込むことができます。

生活では育児が中心です。長男禹涵くんは一歳になりました。今は一生懸命歩く練習をしています。家族全員充実した毎日を楽しんでいます。皆さんは富士山近くに遊びに来ましたら、是非声をかけてください。



家族と

ちょう ランエイ
趙 蘭英 (中国・長春市)
京都大学卒業

「竜の子財団の方々、お久しぶりです」

私は、京都大学医学研究科先天異常標本解析センターで研究職として働いております。仕事と育児で忙しい日々、なかなかご報告できなくて、申し訳ありません。いつも仕事で東京出張の機会があれば、竜の子財団に立ち寄りたいなと思いつつ、秋元理事長をはじめ、皆様お元気でしょうか？仕事と子供の都合でOB会にはなかなか行けませんが、いつか皆様に会いに行きたいです。



私の作品、コンピュータ・プログラミング

ハン ブンリン
班 文林 (中国・呼和浩特市)
東京芸術大学卒業

「北京より、ご無沙汰しております」

北京での生活にやっと慣れてきたような気がしてきました。この写真は電子オルガンによりリアルタイム演奏されたもので、私はそのためのコンピュータ・プログラミングを作りました。これからもどんどん作品を出していけますように、頑張ります。



研修旅行に行ってきました

オウ シュンコウ
王 俊紅 (中国・佳木斯市)
北海道大学卒業

「新しい人生のスタート」

皆さん、ご無沙汰しております。お元気ですか。2013年卒業生の王俊紅です。今は、上海理工大学で働いています。毎日授業の準備や研究などを忙しくしています。時間が経つのははやいですが、新しい環境に慣れるうちあっという間に1年間が経ちました。今月、指導した学生が卒業しました。学生と共に新しい人生をスタートします。新しい夢は優秀な日本語教師になることです。竜の子財団のおかげで私は日本語教師になる夢が実現しました。心から感謝いたします。皆様との再会を楽しみにしております。



清掃の途中休憩にて

シュ シン
朱 震 (中国・陝西省西安市)
京都大学卒業

「富士山清掃のボランティアに参加しました」

5月31日、「富士山クリーンツアー2014」というボランティア活動に参加しました。活動の目的は青木ヶ原樹海にあるゴミを清掃することで、今回の清掃対象となったゴミは、昭和初期に不法投棄された工業ゴミ、その中には金属やガラスがたくさんありました。清掃現場に入るまでは一面に広がるきれいな緑でしたが、入った瞬間に目に飛び込んだ大量のゴミにはびっくりしました。それから全員で一所懸命して掃除をして、やっと担当区域の森を緑に戻しました。



日本癌学会へ行く途中にて

ソン ビンカ
孫 敏華 (中国・天津市)
東京大学卒業

「自分の夢に向かって奮闘中」

竜の子財団を卒業してから2年経ちましたが、皆さんお元気でしょうか？今年の4月から私は東京医科歯科大学で、再生医療（血液、脾臓、肝臓、骨、軟骨など、もともと備わっている再生能力を利用、強化し、様々な疾病の治療に応用しようとする試み）に従事することになりました。私が博士課程在学中、一番迷っていた時に、秋元理事長からの手紙「人生は自分の夢に向かって頑張ること」を思い出しながら、自分の目標に向かって、奮闘しているところです。

SPECIAL REPORT

● 世界の舞台芸術 ●

私は現在東京芸術大学大学院でアートマネジメントを勉強している竜の子奨学生、イ・スンヒョウと申します。東京を代表する舞台芸術祭フェスティバル／トーキョーのディレクターを務める指導教員の市村作知雄先生のおかげで、私は修士課程からフェスティバルに関わりながら国際交流の場を経験することができました。今年の4月には自ら韓国のフェスティバル・ボムを横浜にて開催し、国を越えて同時に開催される初の日韓フェスティバルを実現させました。そのなかで学んできた世界の舞台芸術事情をここで紹介させていただきたいと思います。

舞台芸術といえますと、劇場に俳優やダンサーが出て上演される演劇やダンス、ミュージカルなどを想像しやすいと思います。しかし、私が関わっているいわゆるコンテンポラリー舞台芸術では、劇場や俳優あるいは作品という概念自体が崩れ始めており、かなり変わった形式の興味深いものが沢山あります。

例えば、昨年東京芸術劇場で上演されたドイツのアーティストグループのリミニ・プロトコルが演出した「100%トーキョー」という作品には100人もの出演者が舞台上立ちますが、全て俳優ではない東京に住んでいる一般人です。地域や年齢、性別、人種など東京の実際の統計に合わせて百人を選んでいるので、作品に出演する人々は東京の縮小版ともいえます。その100人に始終様々な質問をしながらその答えのリアルタイムで見るとというのが作品の内容でした。もちろんその統計学だけではなく映像や音楽など様々な要素と演出が絶妙に入るので、普通に見るものとしても面白いものですが、やはり俳優によって演技されるのではなく一般人のリアルな姿を劇場で観れるのが見所だと思います。リミニ・プロトコル



全て一般人によって作られる
リミニ・プロトコルの「100%トーキョー」

ルを代表とするこのような作風を「ポストドラマ演劇」と言います。戯曲によって作られるドラマの次に登場した演劇という意味ですが、現在はコンテンポラリー演劇で世界的に最も流行っている手法になりました。

もっと独創的な作品もあり、キム・ファンという韓国のデザイナーが作った「皆のためのピザ」という作品です。内容を聞くと作品というよりは社会運動のように聞こえるかもし

れませんが、最近はこのように実際に社会に介入して何らかの活動をするという作品も増えています。

キム・ファンは北朝鮮にピザが食べられるレストランが一つし

かないというニュースを聞き、ピザを媒介とし北朝鮮とのコミュニケーションを図りました。北朝鮮の一般家庭でも作られるピザのレシピを開発した彼は、それを紹介するYouTubeの映像のような短編映画を撮りますが、それはまさに北朝鮮の人々が作ったように見せかけるものです。韓国人は北朝鮮の人と接することが禁止されているので、彼は中国と北朝鮮の国境で活動する密輸業者に頼んでDVDを平壤の市場で配布します。そうしたら、北朝鮮の人々からおかげでピザを食べたという証拠写真と手紙が寄せられました。2年間にわたるその過程全てが作品なのです。

ダンスでは、ジェロム・ベルというフランスの振付家等が率いている「ノンダンス」という流派があります。文字通りに踊らないダンスを目指している彼らは、ダンスとは何か、身体とは何かという問いかけを続け、世界的に注目を浴びました。日本でも「ショー・マスト・ゴー・オン」などの作品で知られているジェロム・ベルは、バレリーナや障がい者劇団の人と一緒に作品を作ったりしますが、振り付けをして格好よくみせたりするいわゆるダンスとは違って、人の記憶と歴史をテーマとするドキュメンタリー的な作品をよく作っています。

いかがですか？ 話だけだといったいどのようなものか分りにくいでしょう。今年の秋にも私が関わるフェスティバル／トーキョーが池袋の東京芸術劇場と西巢鴨のにしすがも創造舎を中心に開催される予定です。

日本と西洋のみならず、韓国や中国、ミャンマーなど世界各国のアーティストが集まり、世界最先端の舞台芸術が上演されるので、ご興味のある方はぜひお足を運んでください。



キム・ファンの「皆のためのピザ」—
北朝鮮からの手紙



ジェロム・ベルがタイの振付家と作った
代表作〈Pichet Klunchun and Myself〉

編集後記

委員長 一橋大学大学院 陳 佳

この度、竜の子奨学生の第14号会報誌の編集長を務めさせていただきました。正直、うまくいくかどうか分からず不安でいっぱいでしたが、編集委員の皆さんのおかげで無事に会報誌を完成することができました。私は祝賀会の後半を担当しましたが、改めて日本語の難しさを認識し、とても勉強になりました。皆さん、本当にお疲れ様でした。

副委員長 東京工業大学大学院 房 福明

この度、竜の子奨学生の第14号会報誌の副編集長を務めさせていただきました。論文を日本語でよく書いていますが、やはり論文と会報誌の用語では違いを感じました。論文ではよく「である」ような書き言葉を使っているの、急に普通の書き言葉を使うと、自分の書いた文書は何となくおかしいと思いました。今回は日本語をさらに勉強できるとてもいいチャンスでした。

委員 東京大学大学院 申 中華

編集委員を任された時に、ちょっと心配と不安を感じました。編集という仕事は専門知識と豊かな経験が必要だと思っていたからです。しかし、実際編集会議に参加した時、編集のプロの方が丁寧に先輩たちの経験を紹介してくれたり、具体的なやり方を教えていただくことで、心配が解消しました。また、新入生として、編集会議に参加するたび、積極的な交流ができ、友情を深くすることもできました。さらに、編集プロセスを経て、日本語の勉強だけではなく、チームワークの重要性を再び認識し、体験することもできました。振り返ると編集会議に参加して本当に楽しさと実りがたくさんありました。

委員 京都大学大学院 呂 澄

この度、編集委員を務めさせていただきました。祝賀会の前半を担当しましたが、実際にやってみて改めて認識できたことがあります。それは、人の意思を正確に表すには言葉を操る能力と理解しようと思う気持ちが不可欠であることです。また、現役生の近況報告の取りまとめを担当し、互いに連絡をしているうちにお互い信頼関係を築くことができ、非常に成長しました。

委員 東京大学大学院 馬 瓊

皆さん、会報誌を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。
今回私は現役奨学生でありながら初めて会報誌に参加させていただきました。文章一句一句を編集した過程で、交流会時の一瞬一瞬の楽しい思いを再び感じました。また、「新入生紹介」を担当したので、一足早く新入生の皆さんの夢を知り刺激をうけました。
作文が苦手であり、最初は不安でしたが、順調に進めることができ編集委員の皆さんに感謝します。

第3回編集
会議後にて第2回編集
会議後にて第1回編集
会議後にて

ご寄付いただいた皆さまへ

この度、竜の子奨学生を代表して、ご寄付をいただいた皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。留学生である私達は、夢を追うために母国から日本に来ましたが、夢を実現する道は平坦ではなく、ゴールに辿り着くまで様々な困難を乗り越えなければなりません。竜の子財団はこのような私達を経済的に、そして精神的にも強くサポートしてくださっています。皆様のご支援をいただいているからこそ、私達は安心して勉学に専念できるようになりました。更に、皆様が温かく見守ってくださっているおかげで、私達は日本人、そして日本という国を好きになり、母国のためだけでなく、第二の故郷である日本のためにも力を発揮できるように頑張っていきます。

(平成26年竜の子奨学生 一橋大学大学院 陳 佳)



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林 (平成21年竜の子奨学生)

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず